

朝日新聞

天声人語

〈英文対照〉

朝日新聞論説委員室編

88 冬

VOX POPULI, VOX DE

朝日新聞

天声人語

〈英文対照〉

朝日新聞論説委員室編

江苏工业学院图书馆
藏书章

'88 冬

VOX POPULI, VOX DEI

原書房

天声人語 '88冬の号(第75集)

1989年 2月28日 第1刷

定価 980円

著 者 朝日新聞論説委員室

訳 者 株式会社 英文朝日

発行者 成 瀬 恭

発行所 原 書 房

〒160 東京都新宿区新宿1-25-13

電話・代表03(354)0685 振替・東京5-151594

英文=英文朝日／和文&注=ディグ／表装=同美印刷／製本=豊文社

ISBN4-562-02013-X C0395 ¥980

はじめに

朝日新聞論説主幹

松山幸雄

「天声人語」が、日本の活字ジャーナリズム中、拔群の知名度、信用、影響力をもったコラムであることは、改めて強調するまでもないと思う。各界のトップにも愛読されているし、高校の入試問題にもよく使われる。毎日来る投書も、他のコラムニストが聞いたなら、きつと羨望を通り越して嫉妬にかられるであろうような「量と質」を誇っている。朝刊第一面の真ん中下、という場所的な優遇もさることながら、内容のすばらしさがなければ、とてもこうした名声、人気は維持出来るものではない。

「天声人語」担当者のことを、われわれは敬意をこめて「天人（てんじん）」とよぶが、たった一人で政治、経済、国際、社会……あらゆる問題を、連日素人にも興味がもてるように、また玄人にも評価されるように論じてゆくのだから、「天人」は「超人」ともいえる。彼には、筆力はもちろん、鋭いニュース感覚、科学から花鳥風月まで該博な知識、体験に裏打ちされた国際性、旺盛な批判精神、弱者へのいたわりの心、豊かなユーモアのセンス、さらに連投に耐え得る強靱な体力、気力が必要とされるのである。

実は、たいていの「朝日」の記者は、口に出すかどうかはともかく、若いころ一度は「今に天声人語を書いてみたい」との願望を抱く。ちょうど気鋭の登山家がエベレスト登頂を夢見るように。それが年とともに身の程を知って、みんなあきらめてしまふ。

しかし、よくしたもので、「朝日」には十年に一人ぐらいの割合で、知的怪物ともいふべきとんでもないスーパーマンが現れる。戦後の嘉治隆一、荒垣秀雄、入江徳郎、正田桂一郎、深代惇郎、辰濃和男といった歴代天人がそうで、私は読者として、また同僚として彼らの仕事ぶりを見ながら、いつも杜甫の「不尽ノ長江滾々トシテ来タル」とか、W・ブレークの *The cistern contains*, (水槽はたたえ) *The spring overflows*, (泉は溢れる) という詩を思い出したものだ。

「天人」はどんなに大きくとも、池や水槽ではだめ、こんこんとタネ尽きざる河川型、泉型の記者でないともたないのである。

一九八八年八月から「天人」を担当している白井健策君も、若いときから「朝日」きっての名文家として尊敬されてきただけでなく、ピアノからオートバ

イまで、新聞記者には珍しい多趣味の人としても有名。おまけにロンドン、ワシントンに十年余勤務、そのあと外報部長をやつて、国際感覚に磨きをかけた。というよりも私には、「朝日」が長期計画の下に、彼に若いとき自由とカネを存分に与えて英才教育をほどこし、いまその先行投資を「天声人語」を書かせることによつて回収している、というよつな感じさえする。

「天声人語」がいつから英訳されるようになったか知らないが、朝日イブニング・ニュース紙のスタッフによる名訳は、同紙のひとつの目玉商品になっているし、原書房から年四回出されるこの訳注付き対訳本も、安定した読者をもっている。語学の学習が、素材のつまらなさのために長続きしない例はよくあることだ。その点、このテキストは内容が味わい深いから、勉強していてあきがこない。じっくりと英語の力をつけよつとするものにはたいへん役に立つ、と自信をもつて推薦するゆえんである。

一九八九年一月

天声人語

'88年冬の号

—— 目次

はじめに I

へ一九八八年十月

1	うろたえない見識	2
2	グロムイコ氏ついに引退	6
3	プレッシャーに勝つ	8
4	楼蘭探検隊	10
5	チリは揺れている	12
6	ユニセフ・カード	14
7	森が消えてゆく	16
8	落書き	20
9	李下の冠	24
10	広告コピーは時代の鏡	26
11	新聞を使った教育	28
12	国際情勢の新しい風	32

13	リクルート・ラプソディー	34
14	プロ球界と産業構造	36
15	いまさらの「政治倫理」	38
16	さまよえる生物学者 宮地伝三郎博士	40
17	有毒ごみのゆくえ	42
18	老いたるボランティアの時代	46
19	身体検査	48
20	ゆとりの境地	52
21	ロンドンのタクシー	54
22	どこまで広がる「リクルート」	56
23	十月の語録	58
*	星野中日の1点野球	19
*	子ども達の手紙作戦	31
*	サンマ	45

* 朝日新聞掲載の天声人語のうち朝日イブニングニュースの休刊日(日曜)の関係等で英訳文の無いものを和文だけで収載します。

一九八八年十一月

24	灯台	62
25	クジラ救出大作戦	64
26	ウスメ、ヒカエメ、マジメの原則	68
27	頼りになる地図	72
28	黄落の季節	74
29	「秋山ちえ子の談話室」	76
30	ブッシュ、デユカキスとLワード	78
31	日本人の金銭感覚	80
32	「小さな親切」遺した茅誠司元東大学長	82
33	煮え立つ韓国	84
34	リクルート疑惑と税制審議	88
35	水晶の夜	90
36	ことを重んじた政治家 三木武夫	92

37	マンスフィールド駐日大使	94
38	竹下式国会運営術	96
39	ミッキーマウス	100
40	図書館ネットワーク	102
41	カメラ締め出した議院証言法改正	104
42	黄葉の世界	106
43	タイムトラベル	110
44	街角の音楽会	112
45	十一月の語録	116
*	センセイ、ダイジヨウブデスカ	99
*	かいしゃ川柳	115
*	万物を愛した詩人 草野心平	119

〓一九八八年十二月〓

46	夫婦別姓	122
47	清潔願望	124
48	学校ぎり	128
49	押しつけBGM	130
50	衝突事故の原因	134
51	名誉白人	138
52	「十二月八日」を想う	142
53	隔世の感	144
54	竹下内閣への不信	146
55	『鶴になったおじさん』	150
56	外圧歓迎論	152
57	難航するアルメニア復旧	156
58	裸観さんの一生	158

59	俳壇の最長老 科学者山口青邨	160
60	端正な具象画家 小磯良平	164
61	バッタ害	166
62	車窓から手信号	168
63	ゆうかい対策	170
64	数にまかせた税制採決	172
65	'88年世界のことば	176
66	醜い日本人	178
67	戦争を見つめ続けた作家 大岡昇平	180
68	御用納め	182
69	十二月の語録	186
*	喫茶店いま・むかし	149
*	謀中カネ有り	163
*	今年の十大ニュース	189

〈 Contents — October, 1988 〉

1	In Deference to the Emperor	3
2	Gromyko's Exit	7
3	Harnessing Pressure	9
4	Where East Met West	11
5	Chile at the Crossroads	13
6	UNICEF Greeting Cards	15
7	Earth's Shrinking Forests	17
8	The Pros and Cons of Doodling	21
9	Recruit Scandal: Not a Private Matter	25
10	Advertising Copy: Our Cultural Mirror	27
11	Intellectual Curiosity Needed	29
12	New Political Current	33
13	'Recruit Rhapsody'	35
14	Baseball: Sport or Business?	37
15	Recruit Probe Expands	39
16	A Man of Diverse Interests Dies	41
17	Dealing With Garbage	43
18	'Age of Aged Volunteers'	47
19	Health Talk	49
20	The Sense of Touch	53
21	London Taxies in Tokyo	55
22	The Expanding Recruit Scandal	57
23	October Quotes	59

〈 Contents — November, 1988 〉

24	Japan's Lighthouses	63
25	Tale of Two Whales	65
26	Takeshita: Master of Clear, Vague Speech	69
27	Maps and Distortions	73
28	'Koraku': When Leaves and Reputations Fall ...	75
29	Chieko Akiyama, Queen of Japanese Radio ..	77
30	Bush, Dukakis and the 'L Word'	79
31	Money-Driven Japanese Society	81
32	A Man of 'Small Kindnesses'	83
33	Proverbs and Protests in South Korea	85
34	Disgusting Scene in the Diet	89
35	The Crystal Night	91
36	Miki: A Man of Well-Chosen Words	93
37	America's Warm, Forceful Ambassador	95
38	Takeshita's Diet Manipulations	97
39	Mickey Mouse's 60th Birthday	101
40	Library Networks Increasing	103
41	Why We Can't See the Witnesses	105
42	Banquet of Colors	107
43	Time Travel	111
44	A Yearning for Street Arts	113
45	November Quotes	117

〈 Contents — December, 1988 〉

46	The Surname Debate	123
47	The Japanese Penchant for Cleanliness	125
48	Isolated Children	129
49	Unwanted Music Is Noise	131
50	Transit Accidents	135
51	'Honorary Whites': an Obscene Term	139
52	Memories of Dec. 8	143
53	From Khrushchev to Gorbachev	145
54	Takeshita's Popularity Plunges	147
55	Meet Our 'Crane Man'	151
56	Bless All That 'Gaiatsu'	153
57	Armenian Quake	157
58	Rakan and the Joys of Nakedness	159
59	The Death of a Scientist-Poet	161
60	In Memory of Ryohei Koiso	165
61	Locusts Are Legion	167
62	Who's Behind the Wheel?	169
63	How Not to Be Kidnapped	171
64	Incorrigible Lawmakers	173
65	Words Heard This Year	177
66	'Ugly Japanese'	179
67	A Man of Conscience	181
68	Year-End Cleaning	183
69	December Quotes	187